

道徳科 学習指導案

令和3年11月8日(月)第5校時
6学年〇組(男子〇〇名、女子〇〇名、計〇〇名)6年〇組教室
指導者

1. 主題名 感謝の心 内容項目：B感謝
2. ねらい 感謝することの意味を考えることから、自分の日々の生活を見つめ、それが有形無形に関わらず多くの人々の力によって成り立っていることに気づき、そのことに感謝し、応えようとする心情を育てる。
- 教材名 「おかげさまで」 出典：生きる力 3年 (日本文教出版)

3. 人権教育とのかかわり

この時期の児童は、家族や地域の人々が自分を支えてくれているということに気付くことができなかつたり、「当たり前なことだ。」と捉えがちであったりすると考えられる。

小学校6年生の段階では、自分を直接支える人や、人々のつながりに対して感謝することについて学習することで、視野が広がり、自他を尊重する温かな人間関係を築くことのできる資質・能力を育てることが求められる。

そこで本時では、資料「おかげさまで」を用いて、自分を支えてくれている身近な人々や、その周りにある目に見えないつながりに目を向けさせることを通して、支えてくれている人々に対して、有り難いことだと感じる気持ちがもてるようにする。さらに、『感謝すること』について考えさせることで、ありがたいと思った気持ちを表現しようとしたり、自分も相手に応えたいという気持ちを行動に移そうとしたりすることも学んでいく。

4. 本時の学習

- (1) 準備 電子黒板、掲示資料(場面絵・ハンドサイン)、教科書、ワークシート、タブレット、ミニホワイトボード
- (2) 人権教育の視点
- 感性：支えてくれている人々に対して、当たり前だと思わず、有り難いことだと感じる。
 - 技能：感謝の気持ちを表現したり、行動に移したりしようすることができる。
- (3) 展開

	主な学習活動(○発問 ◎中心発問 ◇問い返し)	指導上の留意点及び支援
導入	1. 本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつ。 ○「おかげさまで」という言葉はどんなときにつかいますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の冒頭に、本時の流れをミニホワイトボードで示すことで、授業の流れを把握できるようにする。 ・事前にとった感謝に関するアンケート(誰にどんな時に感謝したことがあるか。)の結果を提示することで、児童の体験を想起しながら本時の学習の方向付けができるようにする。
5分	S:お世話になっているとき。 S:感謝するとき。 ○みんなは誰に、どんな時に感謝しますか。 S:家族や友達。 アンケート結果提示	
	S:何かしてもらった時。 ◇それだけですか?他にもありそうですね。 S:どうだろう? 他にもあるかもしれない。	
	○今日は『感謝』について考えていきます。 めあて:「感謝する」とはどういうことだろう	

<p>展開 30分</p>	<p>2. 教科書の教材文の範読を聞く。</p> <p>3. 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。</p> <p>○「おかげさまで」という祖母の口癖について、ぼくはどう思っていたのでしょうか。</p> <p>S:おおげさだな。何を言っているの。</p> <p>S:何に対して言っているのだろう。何か嫌だな。</p> <p>◎祖母への思いが変わっていったのは、ぼくがどんなことに気づいたからでしょう。</p> <p>S:自分も多くの人に支えられていること。</p> <p>S:多くの人のおかげで生活できていること。</p> <p>○「おかげさまで」という祖母の口癖について、最後の場面でぼくはどう思っていたのでしょうか。</p> <p>S:色々な人への感謝がこめられていたのだな。</p> <p>S:祖母の気持ちが分かるな。良い言葉だな。</p> <p>4. 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。</p> <p>○『感謝する』とはどういうことだと思いますか。</p> <p>S:自分が色々な人に支えられていることを感じ、ありがたく思うこと。</p> <p>S:してくれたことに気づき、ありがたいと思った気持ちを表現すること。</p> <p>◇直接親切にしてもらったことの他に、人に感謝することがありますか。</p> <p>S:安全に運動できるようにするために、校庭をきれいに保ってくれる人。</p> <p>S:給食を作ったり運んだりしてくれる人。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人物画を用いた「状況渡し」をすることで、物語の内容をより深く理解できるようにする。 ・祖母の口癖をぼくがどう感じているかについて、ポジショニング機能を用いて示させ意図的な指名をすることで、この場面での考えを全体で共有できるようにする。 ・祖母の口癖をぼくがどう感じているか、再度ポジショニング機能で示させることで、ぼくの気持ちの変化を全体で共有できるようにする。 ・「自分を直接支える人以外に感謝することがあるかを問うことで、人々のつながりに対する感謝について考えを深められるようにする。 ・ハンドサインを用いることで、発言に抵抗がある児童も、授業に参加しやすい環境をつくる。 ・タブレットの付箋機能を用いることで、少しでも多くの意見に触れることができるよう工夫する。
<p>終末 10分</p>	<p>5. 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。</p> <p>○あなたを支えてくれている人々に対して、これからあなたはどのように応えますか。</p> <p>S:学校や地域のためにできることを考えて取り組んでいく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を、自分事として考え、自分にできることを考え、今後の生活に生かせるようにする。(家庭科6年『あなたは家庭や地域の宝物』との関連)

(4) 評価の視点

感謝することについて考えることから、自分の日々の生活を見つめ、それが多くの人の力によって成り立っていることについて考えを深めることができたか。

(5) 板書計画

「おかげさまで」

④めあて：感謝するとはどういうことだろう

○「おかげさまで…」どう思っていた？

- ・ おおげさだな
- ・ 何を言っているの

○お父さんの話を聞いて

- ・ おばあちゃん周りの人のことも考えていてすごいな
- ・ 今まで気づかなかったな

◎ぼくが気づいたこと

- ・ 自分も多くの人に支えられていること
- ・ 多くの人のおかげで生活できていること

☆感謝するとは？

- ・ 自分がしてもらっていることに気づき
- ・ ありがたく思うこと
- ・ ありがたいと思つた気持ちを表現すること
- ・ 自分ができることを考え、行動すること

分かってきた ← いやだな…

ぼく